

関西この人紹介

金槌 海に潜る

64期 丸山 文夫さん

元来金槌で、泳ぎは25mが限界でした。が、以前訪れた石垣島で海的美しさに魅了され、いつかは自分も海で遊びたい...と思い、50歳を過ぎた頃、思いきってダイビングの講習を受け、めでたく中年ダイバーとなりました。

定年後は時間はたっぷりあります。仲間を誘い、今まで行けなかった南のリゾートに、ゆっくり潜りを楽しみに行っていきます。沖縄の離島、東南アジア、ミクロネシア、南太平洋の島々のコバルトブルーの

美しい海。水中で漂う心地よさ、目を見張る海中のサンゴ、群がる魚たち。また海外では、異国のダイバーと出会い、現地の素朴な人たちと触れ合い、まさに日常生活を忘れさせてくれます。これからも身体が許す限り、年甲斐もなく水着姿で波と戯れようと思っています。

楽器づくりで定評)に新しい楽器を作ってもらい、ギター演奏を再開しました。現在、2つの合奏団に所属してアンサンブルを楽しんでいます。新しい楽譜を読む頭の体操、きれいに弾く為の指先の練習、人前で弾く緊張感、そして何よりきれいなアンサンブルが弾けた時のエクスタシー...ボケ

予防に役に立つのではと無い、こちらも氣力が続く限り続けようと思っっています。定年退職後まもなく5年目。暇を持て余すのでは...と危惧していましたが、ダイビングとギターという趣味に出会い、マイペースで定年後の生活を楽しくしています。

信濃路 点描

お祭り...今、上田では「まつり」がいつぱい開催されています。昔は上田においても、八日堂縁日、おたやさん、どんど焼き、道祖神、春・秋の祭り、祇園、恵比寿講、収穫祭等々、地域や伝統に密着した祭りが開催されてきました。地域性が薄れ始めた数十年前、市民が自由に参加できる祭りが意図的に造られ、上田わっしょい、丸子どどんこ、などが始まりました。それらも、もう40回を数えます。

特徴を打ち出したもの等が「まつり」として数多く開催されるようになりまし



写真は、口夕島(米国自治領北マリアナ諸島)の現地の子供たちと。左が私です。

上田で新しい祭りが続々と誕生

近年、標高2000mの高原から山里・清流などの自然や花に関わるもの、故事に由来するもの、地域の

上田の新しい「お祭り」

それは、観光資源として、また地域の活性化のため等々目的はいろいろありますが、その新しい「おまつり」が上田において新しい風物として定着しつつあります。個々の祭りの様子を見ますと、まずは開山祭(美ヶ原)、スキー場開き(菅平)などシーズンの到来を祝う行事、上田城「千本桜まつり」、「紅葉まつり」、地域全体で関わっている各種の花の祭り、依田川爆水RUN(丸子地区)など、市町村合



上田真田まつりの鉄砲隊

併で市域が広がった市内の豊かな自然に関わる行事が多いのも上田の特徴と言えるでしょう。多様化する真田まつり

また歴史に由来するものとして、真田氏を中心とした「さなだまつり」があります。これは発祥の地の真田地区や活躍した上田城下などで勇壮な時代絵巻を再現する様々なイベントが行われる時期に開催されています。砥石米山城まつりや新しい

くはじまった真田家の武将を描いた「ねぶた」が登場する「ねぶた祭り」もその一環でしょう。真田氏に関係した全国各地との連携も深まっています。このほか、グルメ、道の駅、産物直産販売所などを拠点とした地域産業の振興のためのお祭りも数多く開催されています。昨今、維新時に活躍した偉人を顕彰する機運も高まって来ました。また、近代上田の基礎となった蚕都としての発展の「まつり」をどう展開するかは模索中です。社会構造の変化が祭りに反映